

関連項目：教育活動プラン④、⑤

## 児童が主体となり、自発的・自治的態度を培う

### 目的

本校の児童は、素直ではあるが自発的・自治的態度が育っておらず、学校生活に主体的に取り組めない傾向がありました。そこで、毎月の生活目標に児童会が取り組むなど、取組の主体を教師から児童に移すことで、児童の自発的・自治的態度を培っていくことにしました。

### 内容

#### ● 生活目標達成への取組

毎月の生活目標への取組方法を児童会や各委員会が話し合って決めます。そして、目標を達成した児童やクラスを表彰しています。例えば、4月の目標「あいさつをしよう」への取組として、児童会役員と生活委員会が児童昇降口であいさつ運動を行い、元気にあいさつできた児童に「あいさつはなまるカード」を渡し、たくさんカードが集まった児童やクラスを表彰しました。

#### ● 異学年交流を児童会が提案、学年が主催

本校は、異学年交流をペア学年で行っています。活動としては「友だちになる会」と「ペア読書」があります。これまでは教師主導型でしたが、現在は児童会が代表委員会で提案し、ペア学年の上級生が主催して、下級生の児童が喜んでくれそうな内容や実施方法について話し合い、計画を立てて行っています。

##### ○ 友だちになる会

ペア学年でレクリエーションなどを行って交流しています。例えば、2年生と4年生の「友だちになる会」では、4年生のクラス代表が進行して体育館で実施しました。まず、ペアを作って自己紹介カードを渡します。その後、じゃんけん列車や爆弾ゲームをし、最後は教師も加わりみんなで手をつないで歌を歌いました。

##### ○ ペア読書

ペア学年の上級生が下級生の児童に絵本などの読み聞かせを行っています。児童会の提案に基づいて上級生の各クラスで話し合い、下級生の児童が興味をもちそうな本を選んだり、読み方の工夫をしたりしています。読み聞かせの場所は、教室を使うペア学年もあれば廊下や体育館など自由にしたペア学年もあります。これも上学年の工夫のひとつです。実施後には、下級生からお礼の手紙が届きます。

#### ● 「ふわふわ言葉」を集めよう

5月の代表委員会で4年生のクラス代表から「相手の気持ちを傷つけることをいう人が多い」という意見がありました。そこで、各クラスで「ふわふわ言葉」がいっぱいになるような取組を考えて実行してもらうことになりました。その結果を代表委員会でクラス代表に発表してもらい、優れた取組をしているクラスを「児童会だより」で全校に紹介しました。

#### ● ロング昼休み

ロング昼休みは、清掃の時間を短縮して通常の昼休みより長く取るものです。6月の児童会長の提案から始まりました。その後清掃をまったくしなくていいのかわ、長くなった昼休みを利用して何かしたい、生活目標の取組と結びつけたらどうかなど、代表委員会や各クラスで時間をかけて話し合い、9月からスタートしました。現在、ロング昼休みを利用して、児童会主催で「城坤〇×クイズ」を行い、全校児童の交流の場となっています。



4月実施のあいさつ運動



児童会主催「城坤〇×クイズ」

### 成果

これまでに比べると、児童の仲間意識や集団の一員としての自覚も高まり、代表委員会や各クラスでの学校生活についての話し合いも活発になってきました。そして、11月からは音楽委員会が発案した「城坤 スマイルコンサート」が開かれるなど、自発的・自治的活動の輪も広がり始めています。